

1．目的

計画・評価部会では、準天頂衛星システムを利用した高精度測位実験システムに関して、事前評価（企画立案フェーズにおけるフェーズアップのための評価）として、計画・評価部会の場で評価票を利用して、詳細な評価と意見の集約を行った。

本文書は、計画・評価部会が行う「宇宙開発における重要な研究開発の評価」の一環として、準天頂衛星システムを利用した高精度測位実験システムに関して研究から開発研究へのフェーズアップに係る評価を行い、その結果をとりまとめたものである。

なお、本評価の結果については、「宇宙開発における重要な研究開発の評価」の全体の取りまとめにおいても、評価報告に含めるものである。

2．評価結果

（1）意義の確認

意義・位置付け

宇宙開発委員会では、衛星測位に係る技術開発についてのそれまでの議論を踏まえ、「今後の衛星測位に係る技術開発のあり方について」（平成14年10月9日 宇宙開発委員会決定）をとりまとめており、この中で、

- ・ 衛星測位システムは、安全の確保や生活の質の向上などに向けた幅広い応用の基盤を提供するものであり、社会のインフラストラクチャーと考えられる。
- ・ 我が国が衛星測位システムを構築し、定常的なサービスを提供しようとする場合には、測位に係る具体的な利用ニーズなどを踏まえつつ、関係府省により広範な観点から検討されなければならない。
- ・ 衛星測位に係る技術については、このような検討を通じて明らかにされる、我が国における具体的なニーズに適時的確に対応するとともに、国際協力による共同技術開発、利用などへの技術的な貢献を可能とするために、政府として